



平成18年度 秋の植樹祭を終えて

水源の森再生にブナなど1,310本植樹

神谷輝幸

目次

秋の植樹祭を終えて 神谷輝幸 1

宮脇昭先生 ブループラネット賞受賞 2

樹木の立ち枯れと気象の関係・立ち枯れ対策 大森禎子 2

講演「森は海の恋人」を聞いて 神谷輝幸 3

日本国民は大金持ち CO2大排出者 尾崎八郎 3

オランダの住まい 杉浦良和 4

方丈庵建設に参加しませんか 神谷輝幸 4

市民が造った公園を歩く 杉浦彦展 5

追憶の森 斎藤和彦 6

三河の風景 草薙 吉秀 6

三河湾のスナメリ るんるん！ 加藤久巳 7

環境を考える キーワード 小谷野錦子 7

平成19年の予定 入会のご案内 8

恒例になった秋の植樹祭。平成18年も大勢の皆さんが参加していただきました。

10月21日（土）は、段戸裏谷原生林の観察会。地元の加藤博俊さんが案内役を買って出てください、子供たちにもわかりやすいように紙芝居風に説明をしていただきました。

夜は、豊川市野外センターで懇親会。杉浦銀治先生、大森禎子先生も参加していただき炭の効用、酸性雨の話を楽しいひと時を過ごすことができました。会を重ねるごとに気心も知れて互いに話に花が咲きました。

プしていただきました。ライオンズクラブが用意したヘリコプターも登場し、スギの間伐材で作った炭約500キロを上空から散布しました。炭は、酸性雨の影響を受けた土壌を改良し、地球温暖化対策になると呼びかけました。

また、安城の3ライオンズクラブの支援で自然に親しむことのできる施設、現代版「方丈庵」建設を進める予定です。

植樹後は五平餅、山菜おこわ、猪汁など山の幸を味わっていただき参加者には大変好評でした。



翌22日は、植樹祭。植樹したのは矢作川、豊川、天竜川の源流地、設楽町斉藤和彦さん所有の山林。スギ・ヒノキの放置林を伐採し、段戸山の植生にしたがって、ブナ、ミズナラなど25種類1,310本の広葉樹を植えました。参加者は250人を越えました。

昼食後「森は海の恋人」の著者畠山重篤氏の講演があり、山に木を植えることが海も豊かになるので森を再生する会の活動は大変意義があると激励していただきました。



特に安城市の3つのライオンズクラブ（安城ライオンズクラブ、安城南ライオンズクラブ、安城中央ライオンズクラブ）がアクティビティとして56名参加していただき、強力にバックアッ

2日間の植樹祭が盛会かつ有意義に持てましたのも、進んでボランティア精神を発揮していただきました会員の皆様のご尽力の賜物と熱く感謝申し上げます。



宮脇 昭先生 おめでとうございます！

平成18年度ブループラネット賞を受賞

私たちNPO法人「森を再生する会」がご指導とご支援をいただいている国際生態学センター研究所長・横浜国立大学名誉教授の宮脇 昭博士が、この度、旭硝子財団の地球環境国際賞である「ブループラネット

賞」を受賞されました。

先生は「潜在自然植生」の概念に基づく森林回復・再生の理論を提唱・実践し、防災・環境保全林、熱帯雨林の再生に成功し、地球の緑を回復する手法の確立に貢献した業績により、この栄誉を受けられました。先生は授賞講演の中で、「環境を守るとは命を守ることであり、森は命を守るために無くてはならない」という力強い言葉で、聴衆を励まされました。

樹木の立ち枯れと気象の関係・

立ち枯れ防止策

大森禎子

樹木の立ち枯れと気象の関係

近年は、大きな気象災害が世界中で起きている。化石燃料の燃焼による二酸化炭素の増加と樹木の立ち枯れによる森林の減少が温暖化を加速させ、災害の原因となっている。

硫酸化物による樹木の立ち枯れ

化石燃料の燃焼で発生する硫酸化物は、台所の換気扇の羽が煙やほこりで真っ黒になるように、濃度がゼロで無い限り、風で運ばれ樹木に塗り重ね、濃縮と蓄積で濃度が高くなる。二酸化硫黄は葉の細胞を破壊し、三酸化硫黄は雲や雨に溶けて硫酸となり、海から来る塩化ナトリウムと大気や土の中にある二酸化マンガンとの混合物に加わると塩素を発生し、付着している細胞を破壊する。同時に生成する硫酸マンガンは100gの水に136gも溶解する性質で葉の水分を奪う。硫酸は葉の成分を溶かしながら、雨で地上に落ちると土壌中のアルミニウムや鉄を溶解性の硫酸化合物に変え、水と吸収して樹木の生長に欠かせない形成層中のリン酸を奪う。硫酸は樹木に傷害を残して、自身は化合物となり雨で拡散し、土壌の中に残っているナトリウムを測定して反応に使用された硫酸を算出しない限り見逃される。

松の立ち枯れは松くい虫によるとされるように、世界50ヶ国180編の立ち枯れの報告があるが、樹種は様々で可視的な病虫害の現象だけを見て、硫酸化物の影響は見落としている。化石燃料は、工業の発達で用量が益々増加し、フロンガスが南極上空にオゾンホールをつくるように、汚染された大気は世界中を移動し、写真に示すように南米大陸最南端のフェゴ島の南極ブナまで枯らしている。

大森禎子先生 プロフィール

茨城県土浦市出生、東邦理学専門学校卒業。東邦大学理学部助手に就任。「水中および鉱物中の微量成分の分析法に関する研究」で学位取得、理学博士。

東邦大学理学部教授・大学院教授併任。1996年東邦大学退職。

二酸化炭素の削減と立ち枯れ防止策

二酸化炭素は、昔のように樹木を原料とした薪や炭を燃料とした場合は、地球上の二酸化炭素の割合は変化しないが、化石燃料の燃焼は二酸化炭素の割合を増加させる。



南極ブナの立ち枯れ 南米大陸最南端フェゴ島 (S55°, W67°) 2000.12.30 (大森禎子撮影)
風の当たる方から枯れて森林は消滅、跡地には幼木も草も生えていない



西海岸の南極ブナの立ち枯れ フェゴ島
2000.12.29 (大森禎子撮影)
斜面の表層から滴下する雨水の硫酸イオン濃度 293mg/L
近くの湧き水の硫酸イオン濃度 1.7mg/L
島の熱源は産出する天然ガスで硫酸化物の汚染源は無い

樹木は、大気中の二酸化炭素と水と地中から栄養源を吸収して太陽の光により成長する。樹木は腐敗したり焼却処分をすると、再び二酸化炭素にもどるが、立ち枯れ木や間伐材や廃材を炭にすると、炭は、燃焼しない限り、自然界では永久に二酸化炭素にもどらない。炭を酸性土壌に撒くと、炭の中にあるアルカリ金属化合物が雨で溶解し、酸性土壌を中和し、残った金属は再び栄養源となり、炭は保水剤となり、微生物の住み家となり、土壌の活性化に役立つ。樹木の立ち枯れ防止に役立つ。

まとめ

樹木は焼き畑、建築材、パルプ、立ち枯れと急速に減少している。化石燃料の使用量の減量と立ち枯れ防止と森林の再生をしない限り温暖化は進む。温暖化による水分の蒸発で空上がった水分は集中大雨、大雪となり、一方では砂漠化による食糧難となる。海水温度の上昇は台風発生、気温の上昇は極氷の溶解による低地の水没と、限りなく環境難民の発生源となる。

植樹祭講演「森は海の恋人」

を聞いて 神谷輝幸

10月21日午後、気仙沼から畠山重篤さんにお越しいただき、「森は海の恋人」と題して講演をいただいた。氏の著書「森は海の恋人」は教科書教材として使われ、大学の論文試験に出題されるようになった。子供たちには話をよく聞いておけば大学入試に役立つとユーモアを交え、情熱的に語っていただいた。

牡蠣養殖業を営む漁師がこの名著を著すにいたった秘密は、小さいころから良書に親しんだという経歴が大いに役に立っているらしい。美智子皇后ともご親交があったというエピソードや京都大学の客員教授として学生に講義をしておられるという実績を聞くと只者でないという印象を受ける。

ところで話の内容は、森が海の恋人であるということを知りやすく具体的に話をされた。その1, 2を紹介する。

「海にはもうひとつの森がある」ということ。「海の森」とはなんだろうかと考えていると、その答えは、「植物性プランクトン」ということがわかる。ご存知のとおり植物プランクトンは動物プランクトンのえさとなり、それをオキアミや小魚が食べる。食物連鎖によりさらに大きな魚であるカツオ、マグロ

が食べる。したがって、マグロを養うには膨大な量の植物プランクトンが必要なのだ。豊富な植物プランクトンが発生するには上流に広葉樹の森がなければ育たない。

その証拠に、次の質問が出された。

「鹿児島湾と東京湾の漁獲量はどちらが多いか？」

自然の豊かさから推論すれば鹿児島湾である、ということになるが答えは東京湾である。なぜか？理由は、鹿児島湾には川が流れ込んでいないが、東京湾には川が流れ込んでいる。つまり上流の森からの栄養分でプランクトンが育つ。だから、魚も多いということだ。森は海の恋人といわれるゆえんである。その秘密はフラボン酸鉄という物質にあるのだが、詳しくは、著書「森は海の恋人」を読んでいただきたい。

お読み下さい 畠山重篤さんの名著

- 普及版が出ています。
- 「森は海の恋人」文春文庫、629円（「森は海の恋人」運動を巻き起こした傑作。文学の香りが高い文章。）
- 「カキじいさんとしげぼう」講談社、1000円
- （宮沢賢治イーハトーブ賞受賞、みちこちゃんが登場する美しい絵本。）
- 「牡蠣礼賛」文春春秋、新書、840円
- （2006年末に出版されたばかりの力作、好評を得ています。）

日本国民は大金持ちCO₂大排出者

尾崎 八郎

国民所得	約	400兆円
国民の預金	約	1,400兆円
国政の借金	約	890兆円
国の一般会計	約	80兆円

私たち日本の政治とCO₂の排出はどうなっているのでしょうか。

〔KK行政〕という無人のペーパー会社を設立して、その会社に大金を貸し付けて「公共事業」という注文書を発行し、国民が受注し仕事をしました。貸し付けたお金は国民に貸金となってうるおきました。完成した公共事業（道路や建造物や人件費）は利用率が悪い（商品価値が使ったお金に対して低い）ためもうかりませんでした。そのため借金は返せるどころか利息を払うだけで精一杯です。その借金というのは〔国債、地方債〕といわれています。その残高総額は890兆円といわれています。日本全国の銀行には1,400兆円の国民の預金がありますし、利息のよい国債、地方債は銀行が喜んで買っていますから、ペーパー会社を設立した私たち国民は心配りません。銀行は預かった金の支払利息より、買った国債、地方債の収入利息の方が高いから自動的にお金が増えていくしくみです。お金持ちの皆さんは銀行にもうけさせないで、自分で買ってもらうようにしてくださいネ。

地方公務員も国家公務員も自宅へ帰れば普通の国民です。〔KK行政〕というペーパーカンパニーの中には責任を持つ人はいませんから、いくら赤字になっても心配りしません。最高

責任者は選挙という判定で落ちれば、個人的に責任を負って借金を返す必要はないというしくみになっています。一般公務員もいくら大赤字を出した事業の責任者であっても、その職から離ればその赤字のお金を請求されることはありません。

その理由は大赤字の事業を要望したのは国民だったのだからネ。〔KK行政〕という会社を設立したのも国民なのです。社長を選んだのも国民、社員を雇った責任者も国民なのです。〔KK行政〕のつくった大赤字を補填する責任は我々国民ということになります。

〔KK行政〕にムダ使いさせてしまった大金は自然を破壊する仕事に使い、ゴミを増やしCO₂を大量排出し、温暖化を進行させてしまったのです。私たち国民生活でのムダ使いも行政マンと同じくCO₂の増大に加担したことになっています。

温暖化の原因が私たち大金持ちのムダ使いと判れば、おのずからその対策はCO₂が減少する経済方策の知恵が求められます。金を使えば使うほどCO₂が減っていく事業は何なのか。投資した建造物がCO₂を減らす働きをしているか。子供達にとって固定負債(人件費)の増加になるか、「富」を生み出す建造物なのか、これからの21世紀の仕事はそのところを間違えないようにしたいですネ。

私たちの大金を銀行に預けっぱなしにすると、国債や地方債の購入に使われてしまいますので、CO₂を減らすためにタンス預金するか、それとも植林の会社の株を買うとか、植林ボランティアに寄付するとか、皆さんの知恵を期待します。

オランダの住まい

HSGメンバー（社会文化功労賞受賞） 杉浦良和

このたびオランダ、フランスを旅して、個人住宅の新・改築等を見ようと朝早く歩き回り、車中目をさらにしても一度も。また、その資材運搬の車を8日も見ることができない。夏休み？ではなく工事中のところすら見ていません？アムステルダム首都住宅の間口六メートル三階建てが多く五階建てまでレンガ積で入口は玄関でなく通路口で表通りにあり京町屋と同じで中に風格の玄関勝手口に通じていて、築200年以上で前・横に傾いて建っていて今尚住み継いでいる。その町並みは京の町屋に同感の安心と落ち着きの風景を感じました。

また農村の住まいは草屋根でレンガと木で造られ二階建て、築百年以上で入口は表と裏にあります。建材は土地より産する。運河の体積が町並みのそれと同じでは？考えられない数の運河その土と泥炭でレンガを作り風車でゼロメートルからマイナス六メートルの土地の水を上げ土手の草と木で家を作っています。

まさに自然とともに生きミレーの絵のような風



方丈庵建設に参加しませんか

安城ライオンズクラブから寄付をいただき、本年中に設楽町水源の森に方丈庵を建設します。10坪ほどの小さな庵ですが、狭いながら機能的で使い勝手のよい住みやすい庵です。都会の喧騒に疲れた人、山の空気を満喫したい方、炭火をたいて自然に抱かれた生活をしたい人、週末を家族で過ごしたい方等きっと満足いただける庵になると思います。

プロの大工職人杉浦良和さんの指導ですすめます。この際一緒にプロの技を習得したい方、自分で簡単な小屋くらいは作ってみたい人は、またとない機会です。ぜひご参加ください。杉浦さんの都合で活動日を決めていきます。詳しくは森を再生する会のホームページ (<http://www.katch.ne.jp/~kamiyaf18/>) 「おしらせ」で順次活動予定をお知らせします。

ぜひ参加したい方は、事前に事務局までお申し込みください。作業日程が決まり次第直接連絡します。その際、ファックス番号、メールアドレス、電話番号等連絡先をお知らせください。



方丈庵建設予定地

今年も前へ進もうよ！



市民が造った公園を歩く（旅行記）

安城市 杉浦彦展

昨年春、名古屋大学の公開講座「環境問題への挑戦」に関する講義の中で、慶應義塾大学環境情報学部石川幹子教授の「都市の環境デザイン」の話を受講した。

人間の生活にとって、水と森は不可欠であり、多くの人が住む都市の公園の重要性とその要件を述べられた。

その中で、有名な都市公園の多くは、王様や殿様の所有地、庭園、城跡等が基盤となっているが、ニューヨークのセントラルパークは、「市民」が参画し、造成し、その管理を行っているという話を聞き大変感銘を受け、過去3度ニューヨークを訪れたことはあったが、その公園を見分し体感したくなかったものである。

そして昨年10月、カナダへ旅行した際に、ニューヨークまで足を延ばし、妻と共に一日散策してきた次第である。

セントラルパークは、ニューヨーク市の中心部摩天楼が聳え立つマンハッタン島の真ん中に位置し、南北4km・東西800mの長方形の公園で面積340万m²（約100万坪）あり、一日で歩ききれない広さである。ちなみに、ロンドンのハイドパークは142万m²、東京の日比谷公園は16万m²、安城の秋葉公園は4万m²である。

今から156年前、マンハッタンの南部に人口が密集（活気づいてきた頃、ジャーナリストで詩人であったウイリヤム・カレン・ブライアントが新聞紙上で、人々の憩いの場所、心を癒す場所が必要だと書いたことがきっかけとなっている。市民が議員を動かす、市は500万ドルで土地を購入。市民自からも資金（募金）を拠出し、汗を流して建設が始まった。

マンハッタン島は氷河に削り取られた岩石が多く、沼地があり、一部はゴミ捨て場にもなっていたところに、岩を砕き大量の土を搬入して公園を整備することに20余年を要している。

植えられた植物は1,400種、樹木は50万本以上、4つの人工池と36の橋、20km以上にわたる水道管と100kmにわたる下水道管が埋め込まれ、97kmの小径が造られた。

ニューヨークは、世界で最も刺激的で、殺気だったリズムが満ちている街といわれているが、通りをわたり歩くと公園に入ると周りは大樹繁れる別世界となる。

朝、二人で公園の南から入ってしばらく歩くと、足もとに木の実を捜すリスが飛び回っており、ベンチに座り新聞を読む

人、犬と散歩をする人、ジョギングをする人々に出会う。

公園の中には、芝生の広場、小高い丘、野外劇場、野外音楽堂、小動物園、ボードハウスカフェ&レストラン等が配置されているが、それぞれが高い木々に囲まれ自然の中にひっそりと存在している風景がこちよ。

幼稚園児と思われる子供達が高さ20～30m、3人抱えにならんとする太い木立の間で、ゲーム遊びに興じる姿はほほえましく楽しげだ。

2時間半ほどのんびりと過ごした後、公園のほぼ中央の東側



面にしたところにある世界4大美術館の一つメトロポリタン美術館を訪れる。この美術館は多くの富豪の寄贈と美術館の収集により、コレクションは200万点（約4分の1が展示）にも及び236のギャラリー数を誇っている。広大な美術館は1日～2日でとても鑑賞しきれぬものでなく、ヨーロッパ絵画と中央アジア美術を中心に観て歩き、本物の素晴らしさに心をうばわれるひと時を過ごした。

退館後の帰途も道草をしながら、公園の岩肌や小さな滝の流れ、林の美しさを見て歩いていると、馬車道をきれいに飾りをつけた馬車が通りすぎる様は何ともロマンチックであった。

こののどかな空間も、40～50年前は、落書が書かれ、街灯が壊され、麻葉がはびこるなど大変荒廃した時期があったと言われている。

そこで、ニューヨーク市は、民間人が参画した管理委員会を発足させ、民間の資金も集めて美化と治安を含め公園の運営

は、管理委員会が行うようになった。

見たところ、ゴミは金網の収集籠に入れられて常に回収されており、犬の汚物は飼い主がきちんと持ち帰る様も散見し、芝生も美しく刈り取られていた。

また、浮浪者風の人も見かけず、二人一組のパトロールが常時周回して治安に努めている姿を見かけた。

ここで、特筆することは、ニューヨーク市はセントラルパーク周辺の土地に環境税を課していると聞いたことである。

私は、150年前、この広大な公園を造った人々は、今日の高層ビルが林立することは想像出来なかったと推測するが、都市の忙しい生活の中で、心の安らぎを覚える自然の力を強く信じていたのではなかろうかと思う。

今後、こうした自然が豊かで美しく広大な公園が健全に保全され、新たに創造されることを願うものである。



追憶の森 齋藤 和彦

峠沿いの尾根筋を雪を踏みしめながら静かに登って行った。確か、赤松とコナラの木に挟まれたアセビの木の根元に野兔の畏は掛けたはずだったが・・・

灌木に掴まりあえぎながら進んだ。

あぁー、あそこだ。見覚えのある赤松が冬の風に揺れていた。そっと近づいて、屈みながら様子を見た。「野兔は臆病だから人間がむやみに足跡をつけるともう近寄らなくなってしまう。」祖父の言葉を思い出しながら息をこらして近づいて行った。ドキドキと少年の日の胸は高鳴った。ここは秋にキノコを探しに来た折り、たくさんの兔の糞があった場所である。冬になって交尾期を迎えた野兔たちはこのような場所に集まって月

夜の晩に恋の宴をする。アセビの葉陰にくすんだ落ち葉色をした野兔の吊り下がった後ろ足を見つけた。

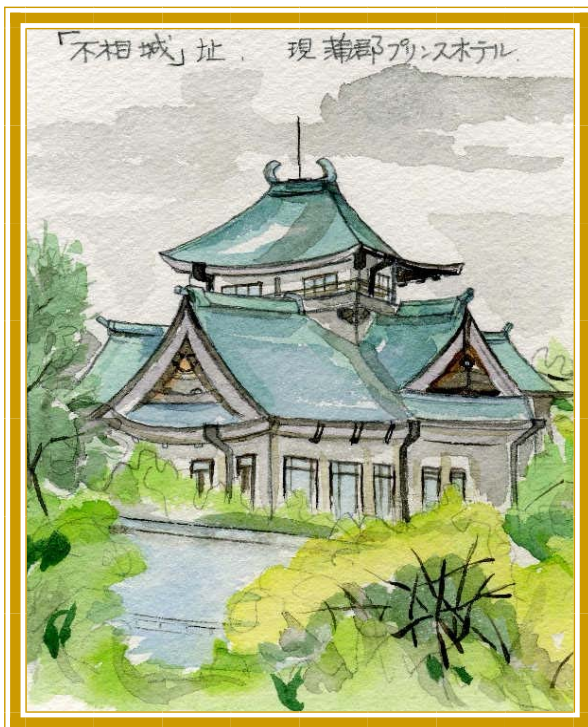
掛かっている。心臓が早鐘のように鳴った。雪の上にカバンを放り投げ、足早に獲物に近づく。一貫目は有りそうな大きな野兔が私のこしらえた撥ね罠に見事に掛かっていた。

時は敗戦後の日本の山村、貧しさが全国区だった頃のことである。ふるさとの山々は豊かな恵をもたらし、小学生の私の稼ぎは家族の食卓を潤した。

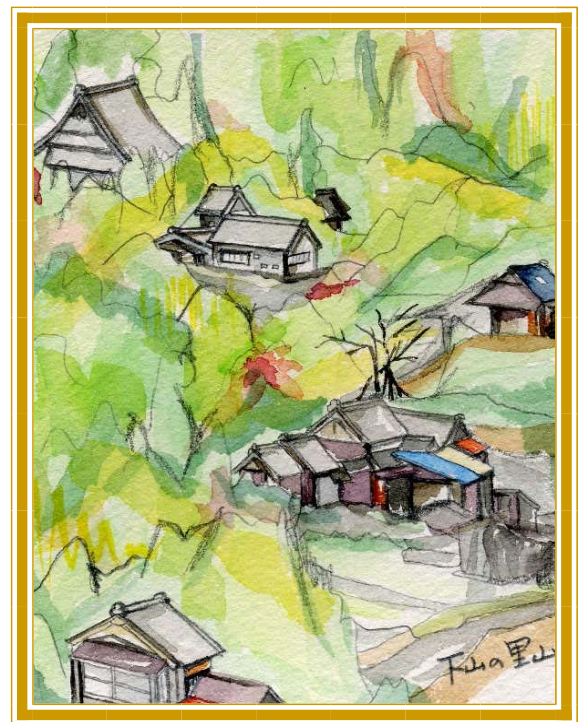
あの日から半世紀たった。多くの生物の命を育んだ森はもう何処にもない。



三河の風景



「不相城」址 蒲郡プリンスホテル 草苺 吉秀



下山の里山 草苺 吉秀

三河の風景(1) 草苺 玲子

生まれ育った三河の風景を語るとき、どこから始めようかと迷います。漣の寄せる美しい三河湾か、身のしびれるほど冷たく澄んだ宇蓮川の淵、或いは冬晴れに御岳を遠望する碧海野か。そして考えてしまいます。三河の海は、今きらめいているのかしら？宇蓮川の淵はかつてのように底に縄張りを守る鮎たちが見えるのかしら？と。

今回は「蒲郡の不相城址」と「下山の里山」です。不相城址には今、蒲郡プリンスホテル(旧蒲郡ホテル)があります。不相城は天正年間(1573-92)、鶴殿長成が築城したお城だそうです。城は長成一代限りだったとのこと。その山城の雰囲気がかつての城郭風建築に偲ばれます。下山の里山は過疎が幸いして(?) 何処此処に懐かしいたずまいが見受けられます。また、人々の体温が感じられるかのような集落が点在します。

三河湾のスナメリるんるん！

森を再生する会理事

三河湾浄化市民塾幹事

加藤 久巳

新年のお年玉として、昨年12月10日幡豆の日産マリーナのホールで行われた「幡豆まちおこし」の会合であった素晴らしいことを皆さんにお知らせいたします。

その会合には、はるばる名古屋の守山からご夫婦で参加されたヨットのオーナーが見えました。会合が終わってから、三河湾浄化市民塾の三浦会長のテーブルに寄られ、次のことを述べ、またお礼も言われました。

それは昨年夏の夏のこと、日産マリーナから自分のヨットを出港させ走っていると30頭程のスナメリが船べりまでよってきてヨットと一緒に元気に泳いでくれた。それもなんと2時間ものあいだ続いたそうです。その方は大変感動されたようで、三河湾の浄化に取り組んでいる我々にお礼のために来られたそうである。その後郵送でそのスナメリの写真を三浦会長に10枚送ってくださいました。その写真を右に掲載します。

私は今から5、6年前に一色町から船に乗り、スナメリを見に行きましたが、1、2頭が50メートル以上も遠くから、私たちを怖そうに見ているだけで、とても近寄ってくれる状態ではなかったのです。

日本一汚れた国定公園三河湾が7年間連続で浄化が進みきれいになると、絶滅が叫ばれていたスナメリがこんなにも元気になってくるものか？

私は、スナメリは汚い海の時には、人間不信だったが、きれいになると人間を信頼し船べりにまで寄って、2時間も遊んでくれたのだと思っています。・・・

私の近所の娘さんは、昨年7月友達とマリンジェットで遊んでいたらスナメリが寄ってきてマリンジェットの下まで潜り込んでしまったので、はっとした事があった。年々海がきれいになってくるので不思議に思っていたが、2千人もの大勢の人々が三河湾の浄化に取り組んでくれたのですかと、目を潤ませてくれました。



ヨットと一緒に泳いでくれたスナメリたち

環境を考える キーワード解説

2. 地球温暖化の影響

小谷野 錦子

2.1 急速に現れてきた温暖化の影響

私たちは年々暖冬が当たり前になり、酷暑の夏も続いていることに気付いています。2006年12月末、気象庁は「平成18年の世界と日本の年平均は、気象庁が統計を開始した1898年以降では11番目に高い値で、最近の10年(1997年～2006年)はすべて1898年以降の11位までに入っている。」と発表しました。このような平均気温の変動の要因としては、気象庁はまず、地球温暖化の影響をあげ、これに数年～数十年程度の時間規模で繰り返される自然変動が重なったものとしています。実際、日本の平均気温(1年間日本各地で観測された気温の平均値)は観測が開始された1898年から100年あたり1.07℃上昇し、世界の平均の上昇0.67℃の約1.6倍大きく出ています。

会誌15号に加藤久巳さんが、今回の16号に大森禎子さんが温暖化の影響を書いておられますが、毎日、森や里の自然に触れている会員は自然環境の変化を随所で発見していると思います。

平成12年(2000年)9月、愛知県西部や三重県北中部を襲った東海豪雨は私たちには忘れられない災害だと思えます。この豪雨は観測史上最大の2倍の雨量を記録し、名古屋市内で堤防が決壊・河川

の越水により広範囲な浸水被害が発生し、死者7名、重軽傷者107名、床上浸水2万4千世帯に及ぶ大災害を引き起こしました。私は大学の仲間と一緒に、支援のために被害地に行きました。すでに水は引いていましたが、すさまじい浸水の様子を知りました。その後、NPO法人・気候ネットワークの浅岡美恵代表が講演で、この東海豪雨は温暖化の表れであると話されるのを聞いて、私は地球温暖化の恐ろしさを身近に感じました。その後も、ご存知のように毎年気象災害が繰り返されています。

すでに、国連の機関であるIPCC(気候変動に関する政府間パネル)は、世界各地の平均気温が大気中の二酸化炭素の増加によって、どのように上昇するかを予測しました。(「気候変動に関する影響報告書」(第三次報告書:2001年))。「このまま温暖化防止対策を取らなければ、2100年頃までには、5.8℃上昇することもある。」と予測しています。現在すでに、温暖化の影響は、北極の海氷の融解、氷河の後退、最高気温の上昇や熱波の増加、干ばつと森林火災の増加、洪水の規模拡大と頻度の増加、土壌浸食の増加、台風・ハリケーンの巨大化、海面上昇等々に現れています。災害ばかりでなく気温の上昇は生態系に打撃を与えています。生態系は気温や海水の温度の上昇に対して対応して、変化できません。ですから自然環境に依存している農業や漁業は深刻な影響を受けています。

例えば、1998年史上最も平均気温が高かった年に、世界の約75%のサンゴに白化現象が起き、そのうち約16%が死滅し、サンゴ礁の死滅はそこに生きる魚たちの生存を脅かしています。(次頁に続く)

ご参加下さい

森を再生する会は、緑のダム作りー流域住民でつくる水源の森ーを目指します。
活動は設楽町田峰西川の山林で行っています。

平成19年の予定

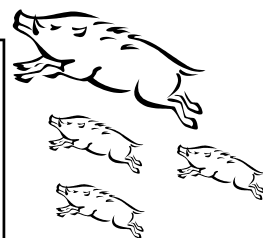
- ・ 総会：(会の活動報告と活動計画の討論)平成19年4月
 - ・ 春の植樹祭：平成19年5月4日(みどりの日)
 - ・ 秋の植樹祭：平成19年10月
 - ・ 定例活動日：毎月第4日曜日(会員が現地で針葉樹の間伐、間伐材の処理、広葉樹を植える土地の整備、すでに植えた若木の手入れ、植樹祭の準備、方丈庵の建設)
- 方丈庵の建設(今年度からいよいよ始まります。)
- ・ 研修会、懇親会
 - ・ 会報の発行(会員皆様の投稿をお待ちしています)

森を再生する会に入りませんか！

- ・ 会費 年額2,000円、他に山を購入する資金10,000円を広く募集しています。
- 森の中で働くと、森林再生の技術を学ぶことができますし、元気を取り戻します。
詳しくは会のホームページをご覧ください。(http://katch.ne.jp/~kamiyaf18/)

御問い合わせは：

西尾事務所：Tel 0563-54-1018 Fax0563-54-1021 (事務局長 榊原和久)、
携帯 090-8556-0503 Eメール:emtown2002@ybb.ne.jp



(前頁から続き)NPO法人・CASA(地球環境と大気汚染を考える全国市民会議)が2006年12月に開いた「地球温暖化ー日本の農業、漁業、生態系に与える影響」シンポジウムで、次の例が紹介されました。①米づくり(JAグリーン近江農協の富江 智氏)：米を作る現場では、稲が出穂期に高温になると、実が白濁し、質が悪くなるため、出穂期以降の気温が27℃となるよう、田植えを遅らせる工夫をした。②温州ミカン：ミカンが収穫の時期が来ても色づきが悪い。③マイワシの減少：マイワシの漁獲量が現在は80年代の漁獲量の100分の1に減った。

この他にも、たくさんの事例があると思います。

2.2 地域の温暖化の影響ー未解明の課題が多い

温暖化による熱エネルギーを溜め、運んでいる主役は水です。水は海と大気の間で、水蒸気、水、氷と形を変えてこの仕事をしています。世界の平均気温の上昇は約0.67℃といわれ、温度としては大して大きくないとも思われますが、全体のエネルギー量は膨大であるため、地球上の気候を変え、世界各地で強大な破壊力を現わして始めたわけです。

気温は地球全体で均一に上昇したわけではなく、南極、北極などでは上昇が大きく、海水が雪崩を打って溶けています。殊に北極では海水の面積が1978年から10年ごとに約50万km²ずつ減少し、氷の厚さも40%減少しました。海水温が上昇により、海水自身が膨張しますから、これが海水の量を増やし、海面を上昇させる主な原因となっています。海面水位は、すでに10~20cm上昇し、ツバルやキリバス

のような太平洋上の島嶼諸国ばかりでなく、バングラデシュ他の土地の低い地域では、海水による冠水・侵食被害が出ています。

赤道付近・低緯度の地域では、気温上昇によって水は蒸発し降水量は減少し、干ばつや砂漠化、森林火災を引き起しています。インドネシアの森林火災は、高温の海流であるエル・ニーニョの接近によるとされていましたが、最近ではエル・ニーニョの出現が温暖化と関連があると云われるようになりました。

北半球の中緯度では、気温上昇と降雨量の増える地域が現れています。日本列島はこの地域に入り、夏期の多雨・豪雨、冬期の豪雪が一応説明されています。

最近の研究によると、海水の塩分の低下が、太平洋と大西洋を巡る大きな海流の流れを変化させているという報告もあります。海流の変化により、海の植物プランクトンが減り、これが水産資源の減少を引き起こしているという報告もあります。温暖化の影響については、未解明の課題が多いと思います。たとえば、前述のマイワシの漁獲量が減った原因が、日本の乱獲によるという説明が、最近新聞に出ていました。早晚解明されると思いますが、どちらの説明が正しいのでしょうか。

日本では、各地で現れ始めている温暖化の影響についての総括的な研究調査が少ないように思います。ですから、私たち一人ひとりが、身の回りで「温暖化の影響？」と思う現象を見つけ出し、その解決策を考えようではありませんか。

編集から：会報No.16には、ご寄稿いただき誠に有難うございました。殊に大森先生には、長年の貴重な研究成果をお書きいただき感謝しております。方丈庵の建設も始まることになりました。植えた小さな苗木も年々育っています。私たちの夢が一つ一つ叶うことを喜んでます。今年もよろしく。小谷野錦子

今年も前へ進もうよ！



今年も前へ進もうよ！



